

腹膜透析

透析とは腎臓の働きの代わりをする方法（腎代替療法）のひとつで、体から出すことができない水分や老廃物（要らないもの）を、透析液を使って体の外に出す方法のことです。

通常、腎臓の働きが正常の 1/10 以下に低下した場合に行われる治療法です、透析だけでは腎臓の働きを完全に代わることができるわけではないので、食事の制限やお薬の内服（薬物療法）は引き続き必要になります。

透析には「腹膜透析」と「血液透析」の 2 種類があり、ここでは「腹膜透析」について説明します。

原理

「腹膜」というおなかの中の胃や腸などを覆っている薄い膜を使って物質（過剰な水分・不要な老廃物など）の移動を行います。

方法

- ① おなかの中にカテーテルを挿入します。
- ② そのカテーテルを通しておなかのなかに透析液を入れておきます。
- ③ 血液中の老廃物や不要な水分などが透析液の中ににじみ出てきます。
- ④ 透析液をおなかから出し、新しい透析液と入れ替えます。

多くの場合透析液の出し入れは、機械（透析器）を使って夜間寝ている間に行います。

ご自宅で毎日行うため、ご本人もしくはご家族が機械の操作を覚える必要があります。

透析を始める前・後に体重を測定します。

透析を始める前・透析中・透析が終わった後に血圧を測定します。

合併症

・ 出口部感染

カテーテルがおなかから出ている場所（出口部）に感染がおこることがあります。

出口部の状態を毎日確認し、消毒を行います。

・ 腹膜炎

発熱、腹痛、透析液が濁る などの症状が出現した場合、おなかの中に菌が入り込んで感染を起こしています。

菌の感染による場合、抗菌薬で治療しないと命にかかわる場合があります。

速やかにおかかりの医療機関を受診してください。

・被嚢性腹膜硬化症（EPS）

腹膜全体が厚くなり腸が動かなくなるため、食事がとれなくなり命を落とす危険性のある合併症です。

嘔吐、腹痛などの症状を呈し。確立した治療法はありません。

腹膜炎を繰り返していたり、長期間腹膜透析を続けていた患者さんに多いと言われています。

EPS が疑われた場合には、なるべく早期に移植や血液透析に変更することが必要です。

腹膜透析		血液透析
場所	自宅	医療施設
方法	カテーテルをおなかの中に挿入	頸の血管にカテーテルを挿入 腕に内シャントを作成
食事・水分	エネルギーやリンの制限が必要になる ことがある	制限が必要
頻度	毎日	週 3 回 1 回に 4 時間
自覚症状	腹部膨満感	頭痛・嘔吐、疲労感